

やすき通信

訪問看護ステーション穩

2019年 冬号



～スムーズに思いを伝えるために～



マシャド・ジョセフ病を呈している T さん。マシャド・ジョセフ病とは、
脊髄小脳変性症の一種であり、小脳が徐々に萎縮し運動失調症状が進行していく難病です。
手や足を動かす際に指令を送る脳神経が障害され、自分の意思で身体を動かすことが
難しくなります。T さんは口や舌が動かしにくく、うまく言葉が出ないことや
声が出しにくいことがあり、「こうして欲しい」「こうしたい！」という思いを
声で伝える事が難しい場合があります。
その際に様々な方法や物を活用し、コミュニケーションをとっています。

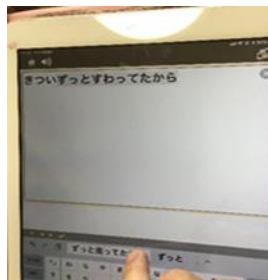
『単語や身体の絵が描かれたコミュニケーションボード、50音表』

これは普段過ごしている場所に常に置いており、
困ったときに指さして相手に伝えます。



『携帯電話のアプリやメモ機能』

一文字ずつ打ち込むため時間はかかりますが、詳細な内容を伝えやすくなります。
医療スタッフにして欲しいと思ったことをメモし、伝えることができます。



今後の状態を予測しながら様々なツールを使用し、ご本人に合った方法を見つけていきます。
ご本人の「伝わらない」やご家族の「わからない」ストレスを解消し、
円滑にコミュニケーションがとれるようにリハビリを行っています。

言語聴覚士：松下 仁美

福岡摂食嚥下サポート研究会に参加しました



歯科領域ではポピュラーな舌圧検査。舌圧測定器を使用するのですが、30Kpaになると低舌圧と判定されます。この低舌圧は、やすき通信秋号に載せた口腔機能低下症（オーラルフレイル）の診断基準になっています。低舌圧になると嚥下機能に影響を及ぼし、肺炎の予測因子となります。嚥下機能アップを図り、肺炎を予防するためには舌の筋力を維持・増進することが必要です。

県立広島大学の柏下教授のおススメ→ペコぱんだ



硬度は5種類あり、患者さんの状態に合わせて選択できます。



看護師・日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士：藤中 雪子

フェスティバル with RUN 1半+

11/17 鶴田公民館にてマッサージ体験に行ってきました！マッサージを受けることが初めてという方も多く、たくさんの方々に参加していただきました☆

OT 船原 千寛



管理者こだまの一言

今年も残りわずかとなりました。皆様どんな1年だったでしょうか？私どもは5月に穏に来てあっという間に月日が経ちましたが、皆様のおかげで名のごとく穏やかに年越しを迎えることが出来そうです。今年もスタッフも増え、これまで以上に利用者さまに寄り添えたらと思っています。

管理者：児玉恵美

医療法人優誠会 訪問看護ステーション穏(やすき)

〒811-1314 福岡市南区的場2丁目37-2

TEL：092-589-3011 FAX：092-589-3021